

第 2 号議案

平成 27 年度 武田塾事業報告

1. 理念・運営方針

児童養護施設武田塾は、保護者の適切な養育を受けられない子どもを、公的責任で保護・養育するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うとする社会的養護の理念に基づき支援を行いました。具体的には

- (1) 家庭的養護と個別化
- (2) 発達の保障と自立支援
- (3) 回復をめざした支援
- (4) 家族との連携・協働
- (5) ライフサイクルを見通した継続的な支援と連携アプローチ

を目指した支援を基本とし、事業計画及び家庭養護推進計画に基づいて、児童への支援の充実に向けて取組みました。

2. 児童の状況

- (1) 入所・在籍・退所状況 ()は26年度)。

平成27年度の在籍児童延べ人数(毎月初日在籍数の年間合計)は547名(555名)、毎月初めの平均在籍数では45.6名(46.3名)とほぼ前年度同様でした。入所児童数15名(11名)に対し、退所児童数は7名(12名)で、年度末の在籍児童数は51名となっています。

地域小規模施設へ本体施設より3名移行しました。きょうだいの入所依頼に対して、本体施設の幼児、男子高校生のユニットや地域小規模2か所のグループケア化により、受け入れ条件が合わずに定員数を満たすまでには至りませんでした。また、退所については、高校卒業就労5名、家族関係を調整し引取り1名、措置変更1名となっています。

- (2) 一時保護児童の状況

平成27年度においては実人数で12人、延べ人数では227人の子どもの一時保護を受託しました。(26年度実人数22名、延べ人数991人)

今年度は、法的対応の子どもの一時保護はなく、前年度に比べ保護日数が大幅に減りました。

3. 援助目標と結果

- (1) 支援の充実

①生活支援

前年度に引き続き、1階幼児、2階男子、3階女子とフロアに分かれ、できる

限り少人数規模の生活環境で、個別に自立支援計画に基づく支援を行いました。

- ア) 1階幼児フロア（グループケア）においては、4名からスタートし年度末に8名となりました。小学2年児は引き続き7月まで、またきょうだいの小学1年生は、愛着の形成や発達面の課題から、より個別化した援助が必要と判断、柔軟な対応をとることとし、幼児フロアでの生活を継続しました。
- イ) 2階男子フロアにおいては、少人数の生活環境の実現を図るため、高校生グループケアと併行して、中学生、及び小学生の生活エリアを区別しました。このことにより、年少児ものびのびとした生活を送ることができています。
- ウ) 3階女子フロアにおいては、全員が女性支援者であることから子ども達との日常的な会話を十分に持ち、そこから出てくる課題に取り組みました。また、目標を定めた高校入学を実現した子どもがあり、他の子どものモデルとなっています。

② 学習支援

低学力を補い、学習習慣を身につけることを目的として、26年度も以下の支援を行いました。

ア) 学習塾の通塾について

三郷町で5名、柏原市6名の小学生～高校生が、月、火、木、金のうち週2回、数学と英語を中心に取組んでいます。

イ) 施設内公文式教室について、

毎週火曜日と金曜日の週2回、年少児から小学6年生までを対象に、

15人が算数、国語、英語の3科目を中心に基礎から学びました。

ウ) 大阪教育大学学習支援ボランティアについて

大阪教育大学学習支援ボランティアは、1回生から4回生までの学生35名が、本体施設28名、地域小規模児童養護施設7名に分かれ、小学生から中学生を対象にマンツーマンで月曜日から金曜日の間で週1回、午後6時～9時までの間で最低1時間を目処に、担当職員と連携しながら、個々の学力にあった学習支援に取り組みました。

③ 治療的支援

平成27年度は臨床心理士5名が計10名の子どもの心理療法を実施しました。対象年齢は幼稚園から高校生までと広範囲に亘っていますが、小学生が最も多くなっています。

子どもは養育環境から愛着形成が困難で、大人への信頼感を持ちにくく、大人に守られ、理解してもらおうという安心感を持ちにくい傾向がみられます。心理療法士は週1回50分という限られた枠組みの中にもありながらも、子どもたちが経験した心の痛みに共感し、理解することに努め、また、生活支援職員との連携により、子どもたちの心の中に大人への信頼回復の気持ちが確かなものになるよう

取り組みました。

④家族支援

家族支援専門員を中心に、子ども家庭センター等と連携し家庭引き取りとなった子どもは2名、家族関係を調整し家族との安定した交流を図っています。

里親支援専門員を中心に、家庭復帰が困難な子どもに週末里親を3名の子どもが活用しました。専門員は、子ども家庭センター、里親会と連携し新規里親の開拓などを進めました。

⑤行事、余暇

今年度は、子どもたちの希望により夏のバーベキュー、クリスマス会を塾全体の行事として取り組みました。前年度に引き続き各フロアやホーム毎の特色を生かした行事を行いました。

毎年恒例となっている柏原市ロータリークラブより柏原市3施設合同でU S J 招待行事、民生児童委員が主催するブドウ狩り、民間会社社長と朽木村住民の方による朽木村キャンプ等の様々な招待行事の他、職員と児童の企画による行事を実施しました。

民間ボランティアや学生ボランティアが小学生グループのフットサルのチームを指導し、府内児童養護施設の大会で準優勝し堺市で行われた近畿大会に出場し、フットサルが生活の中で楽しみや目標になってきています。

高校、大学で空手の経験のある職員の指導により、拳闘部を創設し週3回、小学生から高校生までの9人が地域交流ホールで練習に励んでいます。

拳闘部が生活のリズムとなり、師範として大人に対峙する姿勢から対人関係の姿勢ができてきています。

4. 施設の小規模化・家庭的養護の推進

(1) 地域小規模児童養護施設

奈良県三郷町において2か所の地域小規模児童養護施設（グループホーム）を運営しています。住み込み制としていた1ホームの職員の負担が大きいため、交代制勤務に変更し、2ホームとも交代制勤務体制としました。それに伴い、職員間の相互援助や2ホーム合同でのバーベキューを行いました。

子どもへの支援には職員体制や立地条件等から、本体職員との各ホーム会議や2ホームと本体職員とでのホーム間会議を毎月行い情報共有やサポートに等に努めています。

今後は、三郷町でのグループケア分園の開設によるホーム間の相互協力体制の確立とショートステイ等の地域支援・地域貢献に向け土地・建物の候補地の選定に入りました。

① 三郷ホーム

姉弟が本体施設より移り、小学生、中学生、高校生、高卒の計5名（男子3名、女子2名）が生活しており、高卒者は、弁護士が後見人に選任されるまで措置停止としその調整等のアフターケアをしました。

② 勢野北ホーム

女子6名（小学生1名、中学生3名、高校生2名）がゆったりした環境で落ち着いた生活をおくることで、子どものそれぞれの課題がより明確になり学校と連携し地域一体となった支援を行っています。

(2) 小規模グループケア

1階フロアの幼児居室については、22年度よりグループケアユニットとして愛着形成を図っています。

2階フロアの1区画は、25年度より高校生男子の生活エリアとしました。

併せて、小学生及び中学生の生活エリアを区別し、特に小学生においては、職員との関係が密になったことで愛着形成や信頼関係の構築や個別な課題への係わりがより可能となってきました。

5. 健康管理

常勤の看護師による、診療医師の指示に従った治療や予防・健康管理に取り組み、平成27年度の受診状況は、総計1,244件でした。前年度の926件に比し、318件増加しており、とくに歯科169件、整形外科49件、小児科39件増えています。

家庭での生活習慣が確立されていない子どもは、口腔衛生が悪いことが多く、歯科通院では虫歯治療だけでなくデンタルケアをして、健康の自己管理の一環としています。中・高校生は、運動クラブに入る子どもが増え、受傷等による整形外科受診が増えています。

幼児など抵抗力の弱い子どもは、季節の変わり目に体調を崩し、インフルエンザ等の予防接種をしても罹患することが多く、最近では、アレルギーの子どもが増えています。季節の変わり目にアレルギー性の結膜炎・鼻炎などの受診も増えています。

入所時には、母子手帳がなかったり予防接種の履歴が不明であったり、乳幼児健診を受けていない子どもが多いため、予防接種を受けさせたり眼科受診を入れています。

6. 権利擁護

権利擁護の取組みは、意見箱の設置と前年度に続き第三者委員の定期的（毎月1回）な訪問を得て、意見箱に投函された意見の報告、また、改善点を把握するべく委員による子ども及び職員への面談を行いました。（計4回、子ども6名、職員4名）

第三者委員と苦情受付担当者による職員向け「子どもの権利擁護の取り組みに関するアンケート」を実施し、その結果を28年度に継続して取り組みます。

26年度に実施した福祉サービス第三者評価を受けて、プロジェクトメンバーによる課題整理に取り組み、法人法律顧問弁護士や第三者委員の意見を受け「武田塾生活のしおり」の改訂作業を行っています。

7. 避難訓練、安全管理

避難訓練は、毎月、様々な出火場所等を想定し実施しています。

業務日誌等の電子媒体化により、ヒヤリハットの記録と共有化が進み、今年度は56件の報告があり、職員会議で周知し喚起を促すとともに、業務中の車の事故が続きましたので、柏原署に依頼し職員向け安全運転教室を実施しました。

8. 地域交流と連携

青山台自治会の老人会の皆さん方には登下校時に見守りをさせていただいており、武田塾の子どもたちの安全に大きな貢献をいただいています。

地域の事業所等からクリスマス等にお菓子のプレゼント、労働組合の方々からの隔月の誕生日プレゼントボランティアなど、いろいろな形でのサポートをいただいています。

さらに、平成25年度から始まった、倭太鼓演奏グループの練習に地域交流ホールを定期的に提供することで、子どもたちが鑑賞する機会を得るとともに、幼児が一緒に太鼓をたたいています。

また、障がいのあるアマチュア将棋の有段者の協力で、定期的に将棋教室を開催し交流を図り、また自宅に行き個別指導を受けています。

当法人高井田苑とともに柏原市民間社会福祉施設連絡会として、社会貢献事業にも取り組み、また大阪府社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの研修も受けています。

9. 研修・会議

研修は、法人・施設内研修で対人援助の理解やSVや新人研修を行い、外部では府、大社協、児童施設部会、地域関係機関等が主催する研修（年間99回）に参加しました。これらの研修の成果を受講者だけでなく、施設職員全体で共有するため、伝達研修の実施等の取り組みが必要です。

10. 実習生関係（（ ）内は26年度）

平成27年度は19校（32校）より39名（72名）の実習生を受け入れました。男女比では、男子6名、女子33名で、ほとんどが保育士資格希望者で、社会福祉士資格実習は1名でした。学校種別では4年生大学が7校、短期大学が10校、専門学校が2校と、社会人実習を1名受け入れました。

職員配置基準の改定など、保育士など資格職員の確保が不可欠であり、人材の確保が困難な中で、実習生を指導する職員による反省会や振り返りと、施設長との終了面談など今後もきめ細やかな対応が求められます。